記者発表資料

令和６年１０月２８日
新庄河川事務所
大蔵村

【全国初】肘折地区で観光客にも配慮した地域の防災を考える！

～[第５回]まるごと里ごとハザードマップ　避難訓練＆検討会～

近年、豪雨による災害が頻発し、今年も豪雨による河川氾濫や土砂災害が発生しました。その中でも、普段から防災訓練などを通じて過去の災害や地域の危険を知り、緊急時の避難ルールを決め、住民同士が声を掛け合い早めに避難したことで難を逃れた事例が多くあります。

県内でも有数の温泉観光地である大蔵村肘折地区では、国・村及び大学（弘前大学、秋田大学、山形大学）が連携し、過去の災害や危険な場所、防災気象情報などを学びながら、地域住民だけでなく観光客の命を守るため、「まるごと里ごとハザードマップ※1」の作成に取り組んでいます。

１１月４日（月・振替休日）には「まるごと里ごとハザードマップ（案）」による避難訓練と検討会を開催します。

※1）国土交通省では、平成 18 年 7 月から生活空間である市街地に水災にかかる各種情報を洪水関連標識として表示する「まるごとまちごとハザードマップ」を推進しています。これを基に新庄河川事務所では、土砂災害版として「まるごと里ごとハザードマップ」と呼び、避難誘導標識の他に手作りの避難経路図の作成に取り組んでいくものです。

【開催概要】

■日　　時　：　令和６年１１月４日（月・祝日）
13:00～14:00　避難訓練
14:00～15:00　検討会

■場　　所　：　肘折防災センター（肘折生涯学習センター）
《 住所：最上郡大蔵村大字南山 2126-213 》

■参 加 者　：　大蔵村肘折地区住民、大学及び関係者

※取材を希望される場合は事前に下記問い合わせ先までメールにてご連絡ください。

《発表記者会：山形県政記者クラブ、新庄新聞放送記者会》

問い合わせ先
国土交通省　東北地方整備局　新庄河川事務所
山形県新庄市小田島町５－55　　TEL 0233（22）0262（流域治水課直通）
E-mail：thr-shinjyo01@mlit.go.jp（新庄河川事務所代表）
流域治水課長　　及川（おいかわ）　加奈（かな）

大　蔵　村
山形県最上郡大蔵村大字清水 2528　TEL 0233（75）2111（代表）
危機管理室　消防防災主査　早坂（はやさか）　広行（ひろゆき）

＜参考＞土砂災害から命を守る「まるごと里ごとハザードマップ」の概要

・大蔵村肘折地区では、平成 24 年の融雪に伴う大規模な地すべり性斜面崩壊による銅山川の河道閉塞や県道 57 号の被災による孤立化、令和 2 年 7 月の豪雨による護岸の流出などの被害等が発生しています。

・肘折地区は古くから宿場町として栄えており、現在も年間を通して湯治客や観光客が多く訪れることから、地域住民が自ら避難し、観光客を安全な場所に誘導できるよう「まるごと里ごとハザードマップ」を作成します。

令和4年度	1．地区役員への事前説明会	（R4.10.7 実施）
	2．住民代表への説明会	（R4.12.13 実施）
令和5年度	3．まちあるき	（R5.7.9～10 実施）
	4．図上検討会①[避難経路や避難場所等の図上検討会]	（R5.10.1 実施）
	5．図上検討会②[避難タイミングや避難ルール等の検討会]	（R5.12.4 実施）
令和6年度	6．まるごと里ごとハザードマップ案の説明会	（R6.7.7 実施）
	7．避難実働訓練（避難訓練・検討会）	今回の取り組み（R6.11.4 実施）
	8．まるごと里ごとハザードマップ最終稿の確認	（R6 年度内）

まるごと里ごとハザードマップ作成の流れ



山形県最上郡
大蔵村肘折地区
（最上川水系銅山川流域）
対象地区

「まるごと里ごとハザードマップ」の取り組み

「まるごと里ごとハザードマップ」は肘折地区の皆さんと一緒に作成してきました。令和５年度は地区内の危険な場所や過去の災害で被害あった場所などを確認する「まちあるき」や図上検討会を重ねて、「まるごと里ごとハザードマップ案」を取りまとめ、令和６年７月に住民への説明会を開催しました。

今回は、「まるごと里ごとハザードマップ」の取り組みで検討してきた避難ルールに基づいた避難訓練を実施し、内容を検証。「まるごと里ごとハザードマップ」完成版へ向けた検討を行います。


土砂災害の危険個所を確認


過去の災害における被災個所を確認


急傾斜地に隣接する建物を確認

まちあるき（令和 5 年 7 月実施）



図上検討会（令和 5 年 10 月、12 月実施）

山形県内有数の温泉地である大蔵村肘折地区では、地域に暮らす住民のほかに、温泉旅館の滞在客や観光客に対する災害時の対応について、活発に意見が交わされました。


まるごと里ごとハザードマップ説明会を開催（令和６年７月）


防災センターの備蓄を確認